



広報

まつやま

一人でも多くの人を笑顔に 幸せ実感都市 まつやま



今月のことば

あせるな、いばるな、
おこるな、まけるな。

2000年 「だから、ことば」大募集 ことばオピニオン賞

歴史と自然豊かなまち、斑鳩町



斑鳩町のシンボル、法隆寺

奈良盆地の西北部から矢田丘陵の南端にあり、人口は約2万8,000人。聖徳太子が飛鳥から移り脚光を浴び、中世以降、仏教信仰の地として太子信仰の中心地となる。近世に入り交通の要所であった法隆寺門前や大阪街道に接した竜田村は市や宿場町として栄えた。

法隆寺と正岡子規



柿をモチーフにした斑鳩町キャラクター「パゴちゃん」

松山から東京の根岸に向かう旅の途中で立ち寄った法隆寺の境内で子規は『柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺』との名句を残した。今でも法隆寺境内に句碑が残り、この句のイメージから斑鳩町のマスコットキャラクターが生まれました。

聖徳太子と道後温泉



聖徳太子のことばに由来する「椿の湯」

聖徳太子が道後を来浴された際、ツバキが枝を差し交わすように生い茂っている当時の温泉郷の見事な光景を称えた、といわれている。松山市花と「椿の湯」の由来になっている。



松山市・斑鳩町「観光・文化交流都市協定」調印式

調印式に出席した関係者（左から1人置いて大野玄妙法隆寺管長、野志松山市長、小城利重斑鳩町長、目野西光尊中宮寺門跡）

奈良・斑鳩町と協定 正岡子規など縁に法隆寺で都市協定締結

平成29年の正岡子規生誕150年と、平成33年の聖徳太子没後1400年の御遠忌に向け、協力して機運醸成を図るため、斑鳩町と本市が観光・文化交流の都市協定を締結しました。



今回開催された「聖徳太子市」の様子



斑鳩町に設置された松山観光俳句ポスト

斑鳩町と本市の間では、正岡子規や、法隆寺を創建し道後温泉入湯伝説がある聖徳太子を縁として平成22年、斑鳩町に松山観光俳句ポストを設置。以降、イベントでのブース出展や、修学旅行の誘致などで連携を

重ねてきました。協定の締結式は2月20日に法隆寺で行われ、松山市からは野志市長が、斑鳩町からは小城利重町長と法隆寺の大野玄妙管長、中宮寺の日野西光尊門跡が出席。野志市長は「協定が両市町のさらなる交流促進につながり、全国を動かす原動力となることを期待している」とあいさつ。一方、小城町長は「松山に人の温かさを感じている。今後も交流を深め、地域の発展につなげたい」と述べました。

式典の最後に、松山市の市花で、法隆寺でも「長寿の象徴」として大切にされている「つばき」を松山市から斑鳩町、法隆寺、中宮寺に贈り、末永い交流を誓いました。

558・FAX 9439001 9486

主な内容

- 新企画 私たちのふるさと松山学……6面
- インタビュー特集 将来のために、私たちができること……5面
- 新「おもてなし大使」就任 ……3面
- 特集 まつやま農林水産物ブランド ……7面
- 市民ガイド ……10・11面

発行：松山市役所
編集：総合政策部シティプロモーション推進課
毎月1日・15日
☎948-6705 ☎934-2578
http://www.city.matsuyama.ehime.jp/



多くのプランが旅行商品化

平成29年は子規・漱石生誕150年、そして愛媛国体が開催されます。国内から注目を集める機会を生かすため、広域の関係団体や市民の皆さんとも連携し、効果的な情報発信、誘客に取り組みます。

松山市ではこれまで、「瀬戸内・松山構想」を軸に、広島県の自治体や船舶、鉄道事業者と連携し、瀬戸内圏域を広域的に周遊できる観光誘客に取り組みできました。鉄道と船舶を組み合わせたものや、パワースポットクルーズなど、これまでにないテーマ型広域周遊クルーズ商品を作り、私自身もトップセールスを通して、直接旅行会社に提案しました。鉄道と船舶を組み合わせたものは大変好評で、多くの方に利用いただいで

いるほか、平成29年4～6月、JR6社（北海道、東日本、東海、西日本、四国、九州）が共同で行う大型集中送客キャンペーン「四国DC（ディスプレイネーション・キャンペーン）」が決定しました。これは、一自治体単独ではなく、他県自治体や関係団体との連携によって生まれた成果です。

連携して 情報発信 観光誘客を



松山市長 野志克仁